

仲ノ池の成り立ち

1 ため池について

私たちが住んでいる阪神間のあたりは瀬戸内海式気候です。瀬戸内海式気候は、温暖で雨が比較的少なく、日照時間が長いという特徴があり、居住には適した場所ですが、雨が少ないということは農業にとってはあまりいい条件ではありません。農業、特に米作りには水が必要です。芦屋川を見てもわかるように水の流れが一定せず、危ないくらいに水が流

れたり、涸れたようになってしまうこともあり、この付近では昔から水争いが絶えませんでした。東お多福山の北にある土樋割のお話（1827年）や、芦屋川中流にある鱻きり岩^{ふか}などのお話は昔の人が農業に必要な水を確保するのに苦労したことが偲ばれます。そういう、水不足をなんとかしたいと思い造られたのがため池です。

2 仲ノ池について

日本で一番ため池が多い県は兵庫県で43,734もあり、二位の広島県の21,010の倍以上あります（平成15年の数値）。兵庫県の地図を見ると、明石から西の方や淡路島にため池が多いのがよくわかります。

では昔の芦屋はどうだったのでしょうか。ため池で一番有名なのが奥池です。奥池は猿丸又左衛門安時が中心となり、1841年から約20年かけて六甲の山の中に作ったため池です。

仲ノ池もそういったため池のひとつで江戸時代に作られました。いつできたのかは今のところはっきりとはわかりませんが、芦屋市史等によると、寛延12年（1635）ごろに戸田左門氏鉄^{とださもんじかね}により岸作池（現大原町）が新設され、寛文9

年（1669）ごろに岩ヶ平新田の開発が記録に残っています。当時は徳川幕府が成立し、大阪冬の陣、夏の陣の約50年後で、世情が落ち着き、20年後には元禄文化を迎えるという時期であり、ようやく人口増や経済発展がみられ、仲ノ池も同時期の17世紀後半に作られたものと思われています。

また、寛延3年（1750）に西宮社家郷、芦屋庄、本庄の山論（境界争い）の訴訟の際の裁許状の絵図（5ページ）には東西を丘に挟まれた仲ノ池、ひょうたん池、前池が描かれており、この時点では確実に成立しています。岩園町付近では地下水面が10～20メートルといわれ、水利には乏しい反面、高塚山断層上に瓢箪池、鉦泉、前池鉦泉などがあり、また、3つ



寛延3年山論裁許状紙背絵図（芦屋市役所所蔵）

仲ノ池、ひょうたん池、前池が描かれている

の池から定期的に南部の田へ給水していたことから、一定の湧水があるものと考えられます。

6ページの地図は大正3年（95年ほど前）の土地利用図ですが、赤いところが住宅地で黄色いところが田んぼです。市内のほとんどが農地だったことがわかります。

阪急電車の北側に3つ池がありますが、これは前池、仲ノ池、奥池（ひょうたん池）と呼ばれたため池でした。この池の水は打出の南側、今の大東町や南宮町などにある水田やれんこん畑などに使われていたそうです、水路は、ここから阿保親王塚の横をとおり、今のJRの線路の下と国道2号線の下は地下に土管を設置

仲ノ池の成り立ち

して、打出天神社の横から水を噴出させていたそうです。ここの池の標高が打出天神のところより高いのでサイフォンの原理により地下をくぐった水がふきだすようになります。それから水路で南へ流し、打出の田んぼなどに給水していたということをお聞きしました。今は土管のままでおいておくと陥没の危険などがあるため、処理をされ残っていないようです。

池は東西の丘にはさまれた窪地にありました。丘にはアカマツの林があり、ツツジなども咲いていたそうです。こういうところは比較的やせた土地で、ロックガーデンに沿ったあたりと同じような植生だったと思われます。また、この池の東には昭和のはじめには炭酸

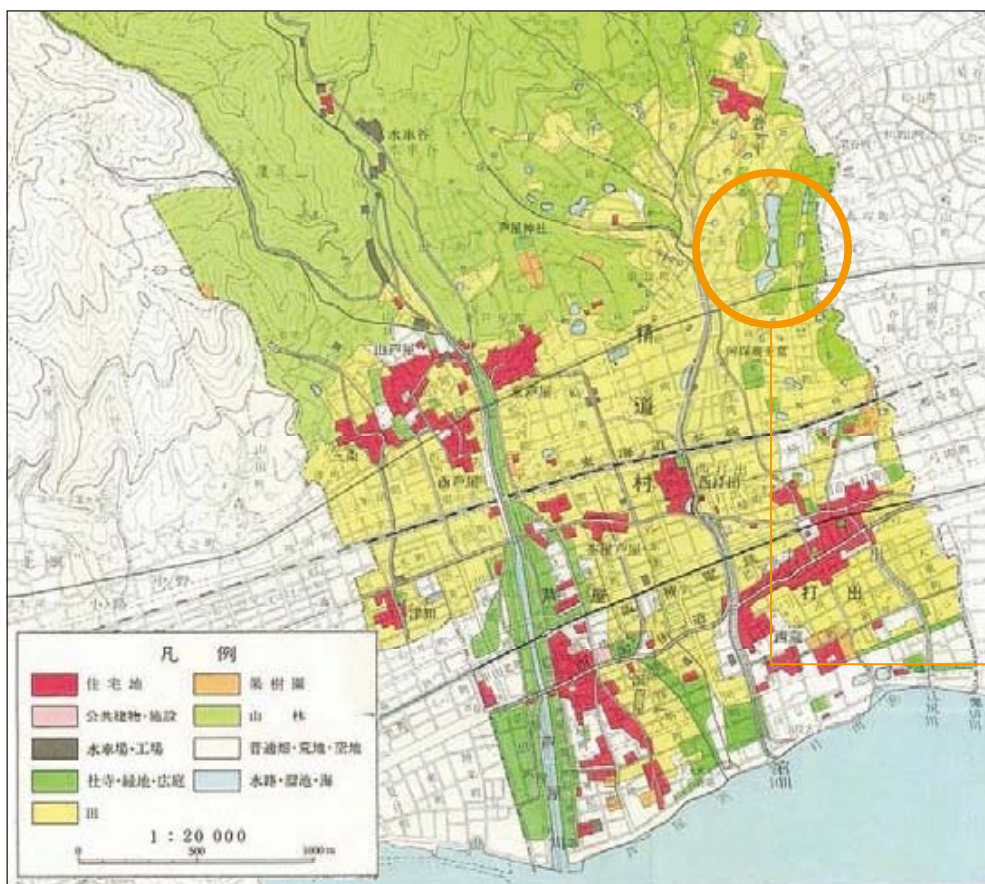


阪急電車と前池 大正9年、当時の新聞に「線路が一直線で六甲山脈の半腹を横断し嵐気を浴びつゝ沖の小舟を眺めつゝ駆る」と報じられた。

泉の湧き出る芦屋温泉という温泉（鉱泉）がありました。池の西側には牧場があり、池では子どもが泳いだり、しじみがバケツ一杯に採れたそうです。

地図をよく見るとため池がたくさんあるのがわかります。芦屋のこのあたりは田んぼや池や林が混在する、今では里山と呼ばれる自然豊かなところで

した。そしてこういうため池は、当時のごく当たり前のものでした。みなさんの家の場所は昔どんなところだったのかを調べてみるのもおもしろいですね。



前池、仲ノ池、奥池（ひょうたん池）

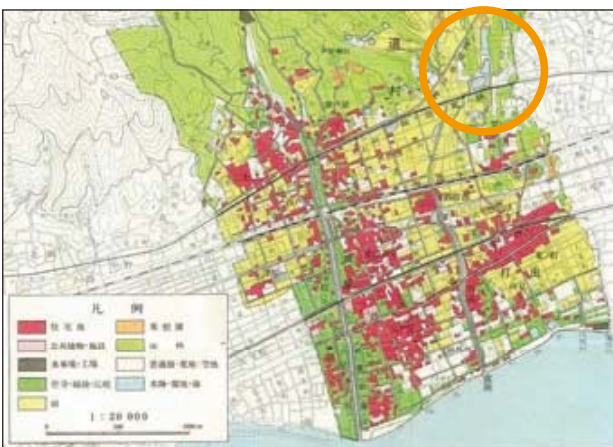
精道村土地利用図
(大正3年)



空から見た岩園住宅開発地 昭和35年11月



住宅が建ち並んだ岩園町 昭和39年



精道村土地利用図
(大正12年)



精道村土地利用図
(昭和7年)



芦屋市土地利用図
(昭和44年)

3 埋め立てと都市公園としての仲ノ池について

戦後、芦屋市は競輪や競馬の主催をしていたことがありました。そして、このあたりにオートレース場を作ろうとして土地の買収をしています。昭和25年以降、全国各地にオートレース場が次々と建設されていました。しかし、その後進展せずに、昭和30年に日本住宅公団に売却して、宅地造成を行うことになりました。甲南団地といわれるこのあたりは昭和35年以降に家が建ったところになります。その宅地造成の中で前池と奥池は周囲の山を削った土で埋め立てられてしまい、仲ノ池だけが残りました。ここは公園として残す予定だったようです。

ところが、仲ノ池は宅地化を目的として民間企業に買収されてしまいました。

仲ノ池と周囲の自然を残したいという市民の運動により、市が交渉し、仲ノ池緑地公園として整備されました。

そして94年に改修工事を行いました。翌年の地震でまた一部が破壊されてしまいました。その後修復されて現在のようになりました。今はため池としての需要はもちろんありません。林と池に囲まれた自然が豊かな、静かな都市公園として皆さんに親しまれています。

ここには豊かな自然が残っていますが、ごみの問題や外来生物の問題、大きくは地球温暖化の影響など、多くの問題も同時に存在します。仲ノ池を将来に向けて守っていくためにも、そのような問題も考えていただければと思っています。



地図に見る明治初期の芦屋

(明治17・18年測量陸地測量部二万分一地形図)



地図に見る大正時代の芦屋

(大正12年測量陸地測量部
二万五千分一地形図)

4 芦屋市広報に見る「仲ノ池」

芦屋市弘報 昭和29年9月20日

芦屋ところどころ

7 打出の丘

(前略) ひょうたん池、仲の池、前池を抱えている高台は、先年オートレース場に予定された所だが、今は又温泉湧出の有望地

となっている。赤い金平糖のような花をつけた萩や尾花の秋風にそよいでいる池畔には釣り人が二三人、静かな水に糸をたれている。土地高燥で眺望がよいので住宅地として祖由来最も発展性のある地の一つだろう (以下略)

芦屋市弘報 昭和30年12月20日

住宅公園へ譲渡 オートレース場用地

かねてより交渉中の岩園町と西宮市域に亘る市有地(オートレース場予定地)の売却に関しては、先ごろ折衝を了し、12月14日の市議会の承認を得て、年内に住宅公園へ正式譲渡することとなりました。総面積は三一、三九六坪(43筆)で、この内、市上水道拡張用地の三、五八六坪と、ひょうたん池の三、八七九坪を除く

二三、九四〇坪をとりあえず譲渡するもので、総額は五三、八七八、五〇〇円となります。

この土地は昨年来、建設省住宅建設計画の用地であったものが先頃住宅公園の住宅建設候補地となり今日に至ったところで、近い将来集団住宅地域に変貌してお目見えすることになります。

芦屋市弘報 昭和31年7月20日

芦屋ところどころ

29 いよいよ開発工事を始めた岩園の大住宅地

昨年市が住宅公園に譲渡した岩園町の一角に、最近いよいよ工事が始まった。六麓荘から緩やかに流れ出ている丘陵の中程で、北からひょうたん池、仲ノ池、前池と並んでいる辺りの東側を、ブルドーザーやキャリヤーを幾台も駆使してバリバリ拓いていく。ついこの間まで、ひょうたん池の西側に立って、時々水鳥のとびたつ、青く澄んだ池の面を、そして池の向かい岸の松の木立ちや灌木の緑の岡を眺めると、一寸野趣に富んだ風景であった。そうした岡の草木を切り開き、その土砂をドシドシ西方の低地に運び出して、ひょうたん池は、今や大方埋められてしまった。余談だが、この池にとっては、カイビヤク以来の異変で魚族は大恐慌をきたし、天を仰いで哄笑しているようだ。

何しろ雄大な計画で芦屋で七万六千坪西宮の約二万坪の地積をば、一億九千万円をかけて開こうというのだ。このたび着手されたのはまだ全体の四分ノ一程にすぎず、これより順次東へ、北へ整地を拡げていき、全部完成するのは二年も先のことだそう。さて阪急踏切の東方を南北に、十五メートル乃至二十メートル中の幹線道路が、またバス街道の阪急ガードと水道筋の中程から東へ一直線に、これ

また十五メートル道路が貫通して交叉する。補助道路は勿論縦横につけられる。南北幹線に接して、阪急の新駅が設けられる。その付近は商店街や集会所、また北東高地部の西宮市境辺に新たに水源池が造られる。それから保育所や小公園等…という構想だ。起伏する団地には、近代式鉄筋アパートが二十棟程点々と建てられる。大ざっぱに言って、各種形式の分譲、賃貸住宅こめて約五百五十戸と、この外に約四百三十戸分の分譲宅地がつくられることになるらしい。これが完成すると緑の木々には、小鳥がたわむれ、さえざっている。水辺には睡蓮の花が、淡紅色に浮かんでいる。六甲の嵐気と、大阪湾の潮風がコバルト色にとけ合って、輝く日輪の下に光っている。すべてが快適で健康的だ。まるでドイツのベックリンの描いた春景色のようだ。が来れば僕のみほしいままの空想にすぎぬだろうか。なお、これにひきつづき朝日丘、東山町一帯の山間地にも、公団住宅に劣らない住宅の建設計画が進んでおり、まず市の手で、約十三万坪に亘る土地区劃整理が行われるべく、ただ今準備中である。滄海変じて桑田となる、とはまさにこんなことをいうのだろう。

岡をけずり池を埋めてはいまわる

ブルドーザーの響きたくまし

西田 増蔵

芦屋市広報 昭和35年4月5日

岩園町-西宮市 住宅公園 甲南宅地が完成

間もなく1000戸の住宅街に

住宅公園が岩園町南部と西宮市の一部にかけて施行してきた宅地造成事業が終り、三月二十五日同地で盛大な完成式が行われました。

この甲南土地区画整理事業は、昭和三十年発足した日本住宅公団が、全国三百万坪(一千万平方メートル)宅地化計画の一環として行われた事業で、もと芦屋市がオートレース場建設地に予定していた約九万二千平方メートルを中心に芦屋-西宮の約三十二万平方メートルを買収し、着々開発に努めてきたものです。着工前は山林が五割をしめていたこの地は三十一年六月着工以来、日夜キャリオールとかクレーパーという重機械を駆使して開発され、

三年半の日子と二億六千万円の経費を費やして、今日の見事な宅地に変貌したわけです。

芦屋市でもここが芦屋市北部土地区画整理事業地域百万平方メートルの一部であるため、地元市民ともども開発に種々の協力を行い、感謝されておりますが、今後も公共施設や店舗の誘致造成に力を貸すことになっています。

現在、縦横七千メートルの道路によって約二百五十に分割された十一万七千平方メートルの宅地には上水道管やガス管もすでに埋設を終え、配電工事も進行中で、一隅の池を取り入れた小公園が景観をそえています。一千戸、人口五千の住宅街が出現するのも間近いことでしょう。

広報あしや 平成6年5月1日

アーバンエコロジーパーク仲ノ池緑地が開園しました。

仲ノ池緑地は、平成三年度に国の施策公園の一つである自然生態観察公園(アーバンエコロジーパーク)として事業採択を受け、平成四年度より工事に着手してきました。

皆さまのご協力のおかげで、このたび無事完成することができ、四月二十九日には「みどりの日」の記念植樹とあわせて、完成記念式を行いました。

この仲ノ池緑地は、近年の著しい都市化の進展に伴って、身近な自然的環境が年々減少し、それらを生息の場とする野鳥、昆虫などが姿を消しつつあることから、都市に自然を呼び戻し、身近に自然とふれあえるまちづくりの拠点となる公園として整備してきました。

南面には、メインエントランスを設け、それに続く展望広場を作りました。ここは、仲ノ池緑地を一望できる憩いの場となるゾー

ンです。また身障者用を併設した公衆トイレも設置しました。東面から北面にかけては、既存の自然的資源である樹林、斜面緑地、草地をできるかぎり残し、また補植も行い、野鳥などの小動物の様子を、驚かさずに見ることが出来る観察小屋を設けています。野鳥を呼び込むために、小鳥の巣箱も設けました。また東側は、水辺地を生み出すために、コンクリートを使わずに捨石を投入し、魚の隠れ場所となるようにしました。さらにその上にシートをかぶせて浅瀬を作り、キシウブやマコモを植え、自然と身近にふれあえる自然観察路を設けました。このように仲ノ池緑地は都市内の貴重な自然を活かし、人間と生物が触れ合えるように整備した公園です。春のお花見、夏の昆虫観察、秋のドングリ拾い、冬の渡り鳥観察など、四季を通じてお楽しみください。

公園緑地課